#### 小倉貴久子と巡るクラシックの旅 vol.3

# まるごとベートーヴェン! ピアノの変遷とベートーヴェンの軌跡

人気シリーズ「小倉貴久子と巡るクラシックの旅」。第3弾では、2020年に生誕250年を迎えたベートーヴェンを取り上げます。ベートーヴェンと言えば音楽室の後ろに飾ってあるいかつい顔でおなじみ…実際、彼はどういった人だったのか、その音楽の特徴とは?また、第3弾の聴きどころについて、フォルテピアノ奏者の小倉貴久子さんに伺いました!

#### ■ ベートーヴェンの音楽の特徴とは?

ベートーヴェンの音楽にはさまざまな側面があり、ひとことで言い表すことは難しいですが、あえて言うならば、「人生の指針を与えてくれるような勇気や希望」が作品の根底に流れているように思います。音楽に対しての純粋な真面目さや人一倍の努力によって作り出された綿密な構成力が生み出す音楽は、聴く人にも演奏者にも特別な充足感を与えてくれます。

#### L.v.ベートーヴェン(1770~1827)



ドイツの町・ボンの出身。音楽史上に燦然と輝く作曲家、ピアニストで、その偉大な功績から「楽聖」とも言われる。作曲はもちろんピアノも当代随一の腕前。また、少年時代は聖楽隊に所属し、綺麗な歌声を響かせていた。

ベートーヴェンの難聴は20代後半頃から徐々に悪化し、30歳になる頃にはほとんど聞こえなくなったとされている。他にも様々な苦悩が尽きず、一時は遺書を書くまでに至ったが(ハイリゲンシュタットの遺書)、芸術によってこれを乗り越え、傑作をいくつも残した。生涯にわたり32のピアノソナタを書いており、「悲愴」「月光」「熱情」「ハンマークラヴィーア」などは今日でも演奏会レパートリーとして非常に人気が高い。

気難しそうだが意外と恋多き男で、今回演奏する「月光」や「エリーゼのために」は好きな女性に宛てたもの。また、かなりの引っ越し魔だったことも有名。22歳でウィーンに移り住んでから56歳で生涯を終えるまでの引っ越し回数は70~80回とも言われている。

#### 今回使用する3台のピアノの特徴を教えてください!



## A.ヴァルター・1795 年モデル (復元楽器 C. マーネ製作)

ウィーン登壇後のベートーヴェンの身近にあ り愛用したウィーンの楽器です。膝レバーに よるダンパー解放装置と、弦とハンマーの間 に薄い布を挟み込み音色を変化させるモデ ラートがついていて、跳ね上げ式の軽いタッ チ、明快な発音、倍音の豊かな音色が魅力です。

今回はこの楽器で ピアノソナタ「月光 | を演奏!

### J. ブロードウッド & サン 1800 年ごろ (太田垣至修復 2020 年)

ベートーヴェンは 1803 年にエラールを手に入れ、ウィーンの楽器と異なるイギリス式アクションのダイナミックな音響に感化されて、ソナタ《ヴァルトシュタイン》や《熱情》を作曲しています。1818 年にはブロードウッドより 6 オクターヴの楽器を贈られ、ソナタ《ハンマークラヴィーア》など後期の作品にインスピレーションを得ました。今回使用するブロードウッドは 2020 年に太田垣至さんにより修復が完成したもので、1803 年に贈られたエラールとかなり近い様相の楽器です。



今回はこの楽器で ピアノソナタ「熱情」を演奏!



#### J.B. シュトライヒャー 1845 年製

ベートーヴェンとプライベートでも親しかったシュトライヒャー夫妻の息子ヨハン・バプティストが 1845 年に製作した楽器です。ウィーン式アクションの軽やかなタッチによる繊細な表情と、歌うような豊かなサウンドが魅力です。 6 オクターブ半の音域をもっていますが、これは晩年のベートーヴェンが望んだ音域です。1824年にベートーヴェンはバプティストのピアノを試弾しています。

# ベートーヴェンは多くのピアノ・ソナタを残していますが、彼とピアノ は一体どんな関係だったのでしょうか?

ベートーヴェンの生涯は、ピアノが著しく発展を遂げた時代と軌をひとつとしています。当代随一のピアニストでもあったベートーヴェンは、ピアノの変遷にも大きく関わってゆきます。当時は大きく分けて、ウィーン式とイギリス式の2つの異なるタイプのアクションが並存している時代でした。ウィーンに住んでいたベートーヴェンは、当然のことながら身近にあったウィーン式アクションを愛で、その楽器からインスピレーションを得て作曲を行なっていたわけですが、そんな彼の元にフランスやイギリスから新作のピアノが、ベートーヴェン先生に弾いていただこう、と贈られてきます。ベートーヴェンは、それら新進の楽器からも大きな感銘を受け、作品にさっそく反映させてゆくと同時に、ウィーンのメーカーにフィードバックしてゆきます。ベートーヴェンを中心に楽器が進化してゆく様を見るのはとても興奮することです。

各々の時代のピアノにはその楽器にしか表現し得ない特色があります。ベートーヴェン自身が初期から中期を経て後期へと大きく作風を変えて行ったように、各期の作品にふさわしいピアノがあったのです。このコンサートでは、ベートーヴェン時代の初期、中期、後期の3台のフォルテピアノをステージに並べて、ベートーヴェンの生涯を辿りたいと思います。

新しいものへの好奇心によって創造される世界は、躍動感と生命力に満ち溢れています。そして実は 最高のメロディーメーカー。「なんてロマンティック~」と、うっとり浸ってしまうメロディーの宝庫で す。またなんとも言えないおどけた一面も魅力のひとつかもしれませんね。

#### ■ 協奏曲第5番「皇帝」の魅力を教えてください!

全ピアノ協奏曲の中でも破格の魅力を放つベートーヴェンの5番目のピアノ協奏曲「皇帝」は、ベートーヴェン中期の輝かしさから、次第に内相的になってゆく後期作品の過渡期に書かれた作品です。オーケストラの前奏と華麗なピアノのアルペッジオに導かれたオーケストラのテーマは力強く、ピアノは、そこに対峙してゆきます。第2楽章の夢見心地な柔らかなテーマは変奏を重ねていく度に、特別な世界に導かれるようです。第3楽章はリズムが躍動し、高らかなテーマは喜びに包まれます。

ピアノが得意だったベートーヴェンですから、ヴィルトゥオーゾなピアノパートに目を奪われるでしょうが、オーケストラの各楽器も大活躍する作品です。当時の管楽器、弦楽器とともに奏でると、音色の融合、自然を模倣したような響きや民族的なリズムなど、生き生きとしたセッションをお楽しみいただけることでしょう。

#### ■ 最後に、皆様にメッセージをお願いします!

ベートーヴェンの人生をフォルテピアノの変遷とともに追体験するようなプログラムで、ソロ、室内楽と名曲目白押しです!ピリオド楽器との協奏曲「皇帝」まで聴ける、まさにベートーヴェンの魅力満載の「まるごとベートーヴェン!」

愉しい午後をさくらホールでお過ごしいただきたいと思います。みなさまのご来場を心よりお待ちしています。

#### 小倉貴久子(フォルテピアノ)



東京藝術大学を経て同大学大学院ピアノ科修了。アムステルダム音楽院首席卒業。ブルージュ国際古楽コンクール、アンサンブル部門及びフォルテピアノ部門で第1位。文化庁芸術祭大賞、ミュージック・ペンクラブ音楽賞、JXTG音楽賞など受賞歴多数。東京藝術大学講師。CD録音は50タイトル以上。シリーズコンサート「小倉貴久子《フォルテピアノの世界》」など、次々と打ち出される企画から目が離せない、唯一無二のピアニスト。https://www.mdf-ks.com/

# 小倉貴久子と巡るクラシックの旅 vol.3 **まるごとベートーヴェン!** ~フォルテピアノの変遷と ベートーヴェンの軌跡~

- ◆ **日時** 2021 年 3 月 13 日 (土) 16:00 開演 (15:30 開場)
- ◆場所 北とぴあ さくらホール(JR 京浜東北線・南北線「王子駅」徒歩2分)
- ◆料金 一般 4,000 円 (ペア 7,000 円) 北区民 3,500 円 (ペア 6,000 円) 25 歳以下 2,000 円
- ◆ 販売 ・ほくとぴあチケットオンライン https://p-ticket.jp/kitabunka
  - 北とぴあ 1 階チケット売場 (窓口のみ/10:00~20:00) ※臨時休館日は10:00~18:00、全館休館日は休業
  - **チケットびあ** https://t.pia.jp/ TEL:0570-02-9999 Pコード 189-549 ※セブン イレブン店頭でも直接お買い求めいただけます。
  - e + (イープラス) https://eplus.jp/ e+ではペア割の取扱い無し ※ファミリーマートでも直接お買い求めいただけます。
- ◆ **出演** 小倉貴久子(フォルテピアノ) 若松夏美(コンサートマスター) ベートーヴェンまるごとオーケストラ(ピリオド楽器使用)

#### ◆ 使用ピアノ&予定曲

・ヴァルター (1795 年の複製)

ピアノソナタ嬰ハ短調 作品 27-2 「月光」 全楽章 ピアノ三重奏曲 第4番 変ロ長調 作品 11 「街の歌」 第3楽章 ヴァイオリンとピアノのためのロンドト長調 WoO41

・ブロードウッド (1800 年頃製 2020 年太田垣至修復)

ピアノソナタへ短調作品57 「熱情」第1楽章 チェロソナタ第3番イ長調作品69第3楽章

・J.B. シュトライヒャー(1845 年製)

ピアノ協奏曲第5番変ホ長調作品73「皇帝」 エリーゼのためにWoO59-3

※曲目・出演者は変更する場合がございます。